

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長

病 害 虫 発 生 予 察 情 報 に つ い て

病虫害発生予報第2号を下記のとおり発表したの送付します。

平 成 2 0 年 度 病 害 虫 発 生 予 報 第 2 号

平成20年 5 月 1 日
岡 山 県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	苗立枯れ	—	並	モモ	ナシメシクイ カメシ類	早 やや早	少 少
	もみ枯細菌病	—	並				
	ヒメトビウカ	やや早	やや多	ブドウ	灰色かび病 べと病	並 並	やや少 やや少
	縮葉枯病	—	やや多				
	ツマク ^ロ ヨハ ^イ 萎縮病	—	少				
イネミス ^ソ ウ ^ム シ	やや早	並	キュウリ等	灰色かび病	—	並	
麦類	アブラムシ類	—	やや多	イチゴ	うどんこ病	—	やや少
	ヤノハモク ^リ ハ ^エ	—	やや少				
ジャガイモ	疫病	やや遅	やや少	タマ ^キ	べと病	—	やや少
				ナス等	ミナミ ^イ アザ ^ミ マ	—	やや多
モモ	灰星病	並	やや多	アブラ ^ナ 科野菜	アブラムシ類 コナガ	—	やや少
	黒星病	並	並			—	少
	せん孔細菌病	並	並	キク	アブラムシ類	—	やや少
	褐さび病	並	やや多				
モモハモク ^リ カ ^ウ メシ ^ロ カ ^イ ガ ^ラ ムシ	—	少	並	並			

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 苗立枯れ

予報内容

発 生 量 並

予報の根拠

ア. 4月25日の1か月予報によると、5月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないと予想されており、発病を助長する条件ではない。

(2) もみ枯細菌病(苗腐敗)

予報内容

発 生 量 並

予報の根拠

ア. 4月25日の1か月予報によると、5月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないと予想されており、発病を助長する条件ではない。

(3) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発生時期 やや早

発 生 量 ヒメトビウンカ(第1世代幼虫) やや多
縞葉枯病 やや多

予報の根拠

ア. 4月25日の1か月予報によると、5月の気温は平年より高いと予想されており、ヒメトビウンカの発生時期はやや早いと考えられる。

イ. 県予察圃場における越冬世代成虫の4月の発生量は平年よりやや多かった。

ウ. 縞葉枯病は県南部において最近やや増加傾向にある。

(4) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発 生 量 ツマグロヨコバイ(第1世代幼虫) 少
萎縮病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成虫の4月の発生量は平年に比べ少なかった。

イ. 萎縮病は一般圃場において近年ほとんど発生が認められないことから、本年も平年並に少なく推移すると予想される。

(5) イネミズゾウムシ

予報内容

発生時期 やや早 発 生 量 並

予報の根拠

ア. 4月25日の1か月予報によると、5月の気温は平年より高いと予想されており、越冬後成虫の本田への飛び込み時期はやや早いと考えられる。

イ. 本田での発生密度は減少～横ばい傾向にある。

(麦 類)

(1) アブラムシ類

予報内容

発 生 量 やや多

予報の根拠

ア. 4月22日の巡回調査によると、発生圃場率は95.7%で平年(62.2%)より高く、発生量は平年よりやや多かった。

(2) ヤノハモグリバエ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月22日の巡回調査によると、発生圃場率は21.7%で平年(62.2%)より低く、発生量は平年より少なかった。

イ. 4月25日の季節予報によると、5月の気温は平年より高いとされており、本虫の増殖をやや助長する要因である。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 現在まで発生を認めていない。

イ. ジャガイモの生育は平年よりやや遅い。

ウ. 4月25日の1か月予報によると、5月の気温は平年より高く、降水量は少ないと予想されており、発病に抑制的な条件である。

2. 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場における花腐れの初発生は4月18日で、平年(4月18日)並の発生時期であった。

イ. 4月23日の巡回調査では、花腐れの発生圃場率は32.1%で平年(25.6%)よりやや多かった。

ウ. 4月25日の1か月予報によると、5月の気温は平年より高く、降水量は少ないと予想されており、発病を助長する条件ではない。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育はほぼ平年並で推移している。

イ. 4月20日の巡回調査(越冬病斑調査)では、発生量は平年並であった。

ウ. 4月25日の1か月予報によると、5月の気温は平年より高く、降水量は少ないと予想されており、発病を助長する条件ではない。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育はほぼ平年並で推移している。

イ. 前年の発生量は平年並であったことから、伝染源の越冬量も平年並と考えられる。

(4) 褐さび病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや多

予報の根拠

ア. モモの生育はほぼ平年並で推移している。

イ. 前年の発生量は平年よりやや多かったため、伝染源の越冬量は平年よりやや多いと考えられる。

(5) モモハモグリガ (第1世代成虫)

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場のフェロモントラップによると、4月1～25日の誘殺数は0頭で平成(10.4頭)より少なかった。

(6) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 越冬世代成虫の50%抱卵日は4月18日と推定され、平成(4月20日)並であった。なお、予測式から幼虫最盛日(防除適期)は5月5日と予測される。

イ. 越冬成虫の生存率は92.2%で平成(89.8%)並であった。

(7) ナシヒメシクイ

予報内容

発生時期 早 発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、誘殺最盛日は4月9日で平成(4月15日)より早く、4月1～25日の誘殺数は32頭で平成(63.4頭)より少なかった。

(8) カメムシ類

予報内容

発生時期 やや早 発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯では4月5半旬までに誘殺を認めていないが、4月25日の1か月予報によると、5月の気温は平成より高いと予想されており、カメムシ類の発生時期はやや早いと考えられる。

イ. 前年のスギ・ヒノキの花粉飛散数を利用したチャバネカメムシ越冬世代(4～7月)の予察灯誘殺数は、赤磐市では15.0頭で平成(354.0頭)より少なく、津山市でも107.9頭で平成(340.8頭)より少ないと予測される。

(ブドウ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. ブドウの生育はほぼ平成並で推移している。

イ. 4月25日の1か月予報によると、5月の気温は平成より高く、降水量は少ないと予想されており、発病にやや抑制的な条件である。

(2) ベと病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. ブドウの生育はほぼ平成並で推移している。

イ. 4月25日の1か月予報によると、5月の気温は平成より高く、降水量は少ないと予想されており、発病にやや抑制的な条件である。

3. 野 菜

(キュウリ、ナス、トマト、イチゴ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発 生 量 並

予報の根拠

ア. 4月24～25日の巡回調査では、全般に平年よりやや多い発生量であった。

イ. 4月25日の1か月予報によると、5月の気温は高く、降水量は少ないと予想されており、発病に抑制的な条件である。

(イ チ ゴ)

(1) うどんこ病

予報内容

発 生 量 やや少

予報の根拠

ア. 4月24～25日の巡回調査では、全般に平年並の発生量であった。

イ. 4月25日の1か月予報によると、5月の気温は平年より高く、降水量は少ないと予想されており、発病にやや抑制的な条件である。

(タマネギ)

(1) べと病

予報内容

発 生 量 やや少

予報の根拠

ア. 4月24～25日の巡回調査では、全般に平年並の発生量であった。

イ. 4月25日の1か月予報によると、5月の気温は平年より高く、降水量は少ないと予想されており、発病に抑制的な条件である。

(ナス、キュウリ)

(1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発 生 量 やや多

予報の根拠

ア. 4月24～25日の巡回調査によるとキュウリ、ナスでの発生量は平年並であった。

イ. 4月25日の季節予報によると、5月の気温は平年より高いとされており、本虫の増殖を助長する要因である。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類

予報内容

発 生 量 やや少

予報の根拠

ア. 4月の黄色水盤への飛来数は、赤磐市では125頭で平年(239.7頭)より少なく、津山市でも136頭で平年(298.7頭)より少なかった。しかし、4月6半旬の飛来数は増加傾向であり、注意が必要である。

イ. 4月24～25日の巡回調査によると、発生量は県下全般に平年よりやや少なかった。

ウ. 4月25日の季節予報によると、5月の気温は平年より高いとされており、本虫の増殖を助長する要因である。

(2) コナガ

予報内容

発 生 量 少

予報の根拠

- ア. 4月のフェロモントラップの誘殺数は、赤磐市では0頭で平年（68.4頭）より少なく、津山市でも0頭で平年（17.4頭）より少なかった。
- イ. 4月24～25日の巡回調査によると、発生量は平年より少なかった。

4. 花き類

(キ ク)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 4月の黄色水盤への飛来数は、赤磐市では125頭で平年（239.7頭）より少なく、津山市でも136頭で平年（298.7頭）より少なかった。しかし、4月6半旬の飛来数は増加傾向であり、注意が必要である。
- イ. 4月24～25日の巡回調査によると、発生量は平年よりやや少なかった。
- ウ. 4月25日の季節予報によると、5月の気温は平年より高いとされており、本虫の増殖を助長する要因である。

病虫害発生予察情報テレホンサービス

岡山県病虫害防除所では、主要病虫害の発生状況や防除に関する情報を迅速にお知らせするために、テレホンサービスを実施しております。気軽にご利用ください。

電話：086-955-2224

携帯電話用アドレスの公開

予報、注意報、警報については携帯電話用の情報（簡易版）を公開しています。

アドレスは

<http://www.pref.okayama.jp/norin/nousou/kei/top.htm>



リーダー用のQRコード